



## 建部米(特別栽培米ヒノヒカリ、雄町)

70歳を超えるおじいちゃんやおばあちゃんが**はっぼね**になって、環境に優しく安全安心で美味しい米づくりをやっとるんでー。旭川中流域の自然に恵まれた、岡山市北区建部町で、長年の経験を活かしてじゃの一、レンゲや堆肥といった有機肥料を主体に栽培しとんじゃ。

※**はっぼね**とは、岡山弁(特に建部地域など中央部)で「中心」という意味じゃ。

### 《たけべ特別栽培農産物研究会》

- ◇Eメール [takebemaigmail.com](mailto:takebemaigmail.com)
- ◇Webページ <http://takebemaigimdo.com>
- ◇Twitter <http://twitter.com/#!/takebemaig>



### レンゲ摘み首飾りに

建部保育園(岡山市北区建部町市場)の園児約70人が6日、レンゲソウや菜の花を植えている佐藤勤さん(77)の田んぼで草花遊びをし、自然と触れ合った。

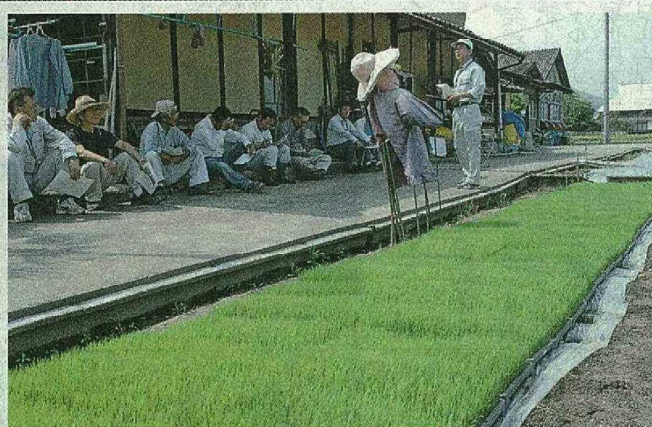
佐藤さんは土と一緒に耕して養分にするためレンゲソウ約12町、菜の花を摘んで遊ぶ園児

田んぼは歓声を上げて入ると、寝転がったりジャンプしたりと天はしゃぎ。レンゲソウを摘んで首飾りを作ったり、自分の背丈よりも高い菜の花に分け入って、かくれんぼをするなど思い思いに楽しんだ。

園児は歓声を上げて入ると、寝転がったりジャンプしたりと天はしゃぎ。レンゲソウを摘んで首飾りを作ったり、自分の背丈よりも高い菜の花に分け入って、かくれんぼをするなど思い思いに楽しんだ。

(小林貴之)

# 雄町米を減農薬栽培



県農業普及指導センターの担当者(右)から雄町米の苗の栽培方法を学ぶメンバーら

## 新たな特産物に

建部町地区の研究会  
今月下旬に田植え

## 安全な日本酒目指す

岡山県北の雄町米は、醸造は倉敷市内の蔵元が協同農家10戸でつくる「たけべ力し、来春の発売を見込んでいる。特別栽培農産物研究会は、安全・安心を売りにした日。建部町地区の新たな特産本酒造りを目指し、酒米雄にしよう」と企画。本年度は「町米」の減農薬栽培に取り、メンバーの佐藤勤さん(77)が、今月下旬に田植え。同建部町市場が、農業と化学肥料を通常の半分以下に抑えて約70町で試作。他のメンバーは栽培方法などを学び、来年度以降は生産者を増やしていく。

今年約900町の収穫を目標にしており、佐藤さんは現在、県農業普及指導センター(同弓之町)のアドバイザーを受けながら育苗中。一緒に耕して養分にするため、田んぼでレンゲを育てるなど土作りにもこだわる。「建部をPRするためにも、安全で品質の良い酒米をつくりたい」と意気込む。

醸造は、同会のメンバーと農工商連携のイベントで知り合った熊屋酒造(倉敷市林)が協力。庵谷晴男社長(45)は「生産者が米作りに自信を持っている。おいしい酒ができるのでは」と期待する。

同会は環境に優しく安全な農産物を消費者に届けようと、2006年4月に発足。減農薬栽培でヒノヒカリ「たけべ米」を生産している。(小林貴之)

110507山陽新聞(岡山市民版)

110609山陽新聞(岡山都市圏版)

